

Cisco IOS リリースの名付けに関するガイド

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[Cisco IOS リリースの文字定義](#)

[既存の STED リリースに基づく短期リリース](#)

[既存の STED リリースに基づく複数の X リリース](#)

[IOS リリース命名規則の例外に関する特記事項](#)

[T リリースに基づく Cisco IOS X リリースまたは短期 ED リリースのリリース名](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントは、Cisco IOS[®] ソフトウェア リリースの命名規則のガイドです。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

Cisco IOS リリースの文字定義

リリースに割り当てられた 1 番目の文字は、該当するリリースに固有のテクノロジーに基づくものです。Cisco の IOS リリースの展開に使用されたテクノロジーの文字を次に示します。

- A = アグリゲーション/アクセス サーバ/ダイヤル テクノロジー
- B = ブロードバンド

- C = コア ルータ (11.1CA、11.1CT、11.1CC)
- D = xDSL テクノロジー
- E = エンタープライズ機能セット
- F = 機能固有の強化 (11.2F)
- G = ギガビット スイッチ ルータ (GSR)
- H = SDH/SONET テクノロジー (11.3HA)
- J = ワイヤレス ネットワーク テクノロジー (Aironet)
- M = モバイル (モバイル ワイヤレス BU の使用に限定、メインライン用に追加予約)
- N = 音声、マルチメディア、会議 (11.3NA)
- P = プラットフォーム機能 (11.2P)
- R = ROMMON リファレンス用に予約
- S = サービス プロバイダー
- T = 統合テクノロジー トレイン用に予約
- W = LAN スwitチング/レイヤ 2 ルーティング
- X = 短期の単発リリース (12.0XA)
- Y = 短期の単発リリース (X を使い切った場合)
- Z = 短期の単発リリース (Y を使い切った場合のために予約)

注: 新しい文字は、新しいリリースを作成するために定義できます。

1 番目の文字は、該当するリリースでのテクノロジーを示します。たとえば、DSL テクノロジーに基づく早期実装 (ED) リリースは、Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.0DA または 12.0DB の名前が付けられます。最初の部分の D は、このリリースが DSL テクノロジーに基づくことを示します。この場合、2 番目の文字である A または B は、リリースを区別するために使用される次の連続文字です。



IOS Specific Technology ED (STED) リリース名前付けスキームの進化は、シスコの目標市場の成長により大きな影響を受けています。この成長によって、いくつかの STED では 2 文字使用を採用する必要ができました。これには、メンテナンス番号が付加されています。このメンテナンス末尾番号により、後続の各メンテナンス リリースを含む、新機能およびプラットフォームの統合が可能です。拡張された IOS STED の一覧、その特定のテクノロジーの市場、メンテナンス割り当て、およびビルド割り当てが続きます。2 文字の STED 割り当ての使用は、次のテクノロジーに限定されています。

テクノロジー	初期展開
ブロードバンド ケーブル	12.2BC
LAN スイッチング	12.1EA
ブロードバンド ケーブル	12.1EC
ワイヤレス ネットワーキング	12.2JA
モバイル ワイヤレス	12.2MB
モバイル ワイヤレス	12.2MC
LAN スイッチング	12.0WC

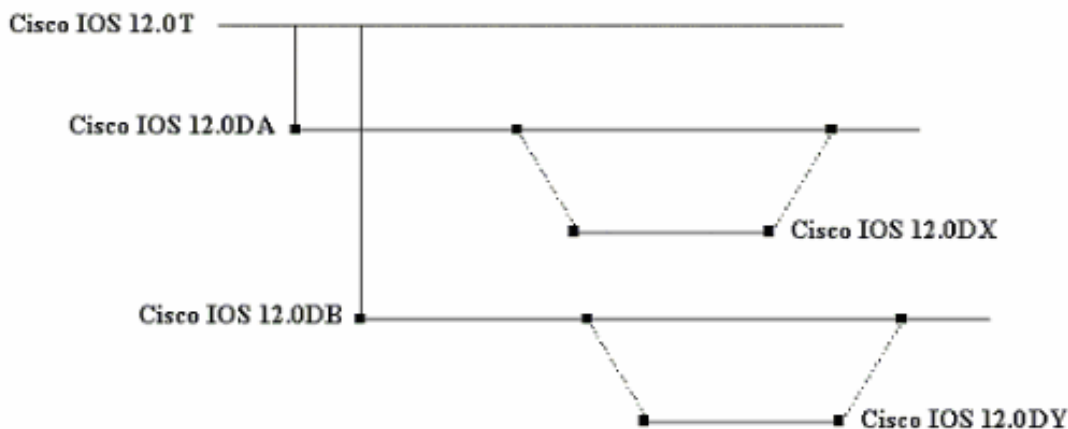
多くの場合、最初の文字は親の文字を反映し、その後には連続した番号が割り当てられます。ただし、変化するテクノロジーや新興市場の性質のため、これはグローバルに想定するべきではありません。

たとえば、Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.2MB および 12.2MC は排他的で、モバイルワイヤレステクノロジーとのみ関連していて、シスコのメインライントレインと混同すべきではありません。

今後、「M」の文字の使用割り当ては、潜在的な混乱を避けるために制限されます。

既存の STED リリースに基づく短期リリース

同じプラットフォームでの同様のテクノロジー分野のリリースでは、前の命名が使用され、リリースメンテナンス番号が更新されます。たとえば、Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.2(1)DX と 12.2(2)DX など。



既存の STED リリースに基づく複数の X リリース

IOS リリース命名規則の例外に関する特記事項

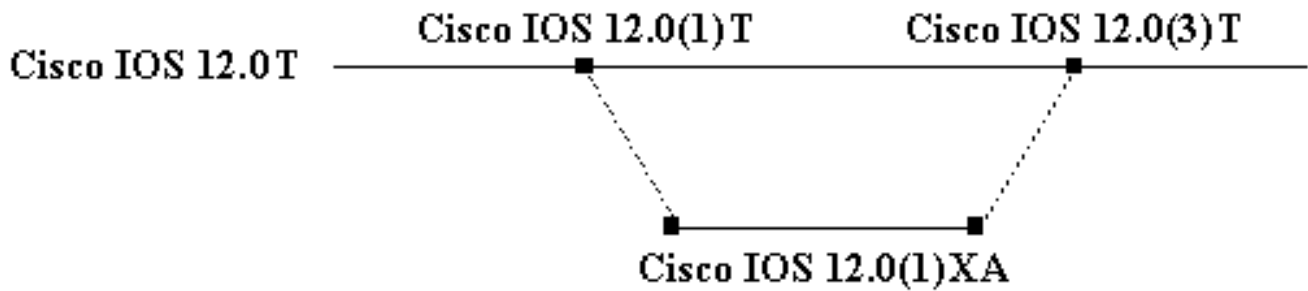
Cisco IOS STED リリース 12.1 E および 12.2 B では、X、Y、Z の特殊リリース命名文字割り当てを使い切っていました。したがって、文字「V」および「W」の使用がこれらのリリースに付加されました。これらはその他の「X」リリースと同様に取り扱われる必要があります。たとえば、Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.1(10)EV、Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.1(11)EW、および Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.2(4)BW など。

T リリースに基づく Cisco IOS X リリースまたは短期 ED リリースのリリース名

X の後の一連の文字は、短期リリースを示します。例えば XA、XB、XC では、最初の X は主要なテクノロジー (T) トレインに起因する単発 (短期) リリースを示します。2 番目の部分の文字 (A、B、C、D など) は、リリースを区別するために使用される一連の文字です。

文字 Y は、X がすべて使い果たされた場合に使用されます (YA、YB、YC など)。文字 Z (ZA、ZB、ZC など) は、T リリースの必要に応じて、追加の短期リリース サポート用に予約

されています。



一般的な規則は次のようになります。

- 特定のプラットフォームで新機能を迅速に導入したり、特定のハードウェア製品を導入するために、Cisco Business Unit (BU) では X リリースの使用に注力しています。これは、アクティブな T リリース (Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.0T) に基づくものです。
- 異なる X リリースを区別するには、2 番目の文字が区別子として使用されます。この区別には、同じリリース内でのプラットフォームおよび機能サポートが含まれます。
- X リリースには、スケジュールされたメンテナンスの末尾は付いていません。製品寿命が長期にわたるため、その機能とプラットフォームをメインライン テクノロジー T リリース内に統合できます。この場合では、Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.0T です。X リリースのバグ修正が必要なお客様は、X リリースの統合時またはそれ以降に、次の T メンテナンスリリースにアップグレードする必要があります。
- X リリースに付加されている番号 (たとえば Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.0(2)XC1) は、深刻な問題に起因するリリース (ここでは Cisco IOS ソフトウェア リリース 12.0(2)XC) のリビルドを示します。

関連情報

- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)